

## 令和元年度第1回市原市水と彫刻の丘協議会議事録

- 1 日時 令和元年6月21日（金） 午後2時30分から午後4時30分まで
- 2 場所 市原市役所 議会棟 第4委員会室
- 3 出席者  
(委員)  
神野真吾委員、松本靖彦委員、石川晋平委員、鴻野わか菜委員、寺島洋子委員  
(欠席者)  
倉林眞砂斗委員  
(事務局)  
市原市 小出市長（途中退席）  
経済部 荒井部長、早川次長  
観光振興課 暉課長、中村課長補佐、菊地係長、鈴木主事、高橋主事  
スポーツ国際交流部 泉水参事  
生涯学習部 ふるさと文化課 中村係長  
(市原湖畔美術館)  
富樫職員、石井職員
- 4 次第
  - (1) 委嘱状の交付
  - (2) 市長挨拶
  - (3) 委員紹介
  - (4) 会長及び副会長の選出について  
・委員の互選により、会長に神野真吾委員、副会長に松本靖彦委員が選出された。
  - (5) 市原市水と彫刻の丘について
  - (6) 議題
    - ①平成30年度展覧会事業等の報告について
    - ②令和元年度展覧会事業等の計画について
  - (7) その他
- 5 会議経過  
以下のとおり

(神野会長)

それでは、よろしく願いいたします。

議事に先立ちまして、協議会の成立要件について、確認したいと思いますので、事務局より報告をお願いします。

(事務局)

本協議会の成立要件につきましては、規定により委員の皆様の過半数の御出席が必要となります。

本日は、総委員数6名のうち5名の委員の皆様に御出席いただいておりますので、過半数を超えておりますので、本協議会が成立していることを御報告いたします。

(神野会長)

只今、事務局より出席委員数の報告がございました。

なお、議事録につきましては、委員の皆様にご確認していただいた上で、会長である私と副会長である松本委員の二人が確認し署名することとしたいと考えますが、いかがでしょうか。

—異議なし—

(神野会長)

ありがとうございます。異議なしとのことですので、議事録署名人には会長と副会長があたることといたします。

本協議会は、市原市情報公開条例の規定により、会議の審議内容が許可、許認可等の審査、行政不服審査、試験に関する事務等に係るものを除き、会議を公開するよう努めなければならないとされておりますので、これからの議事を公開としてよろしいでしょうか。

—異議なし—

(神野会長)

ありがとうございます。異議なしとのことですので、議事を公開といたします。それでは傍聴人がいれば、入室を許可いたします。

—傍聴人なし—

(神野会長)

それでは、改めまして、只今より令和元年度第1回市原市水と彫刻の丘協議会を開会いたします。次第に従い進行いたします。本日の議題は、(1)平成30年度展覧会事業等の報告について、(2)令和元年度展覧会事業等の計画についてですが、議題に入る前に、本日が1回目の会議となりますので、まずは市原市水と彫刻の丘について事務局よりご説明をお願いします。

(事務局)

—資料に基づき説明—

(神野会長)

只今、事務局より説明のありました市原市水と彫刻の丘について、質問等がございましたら挙手のうえ、ご発言をお願いします。

(神野会長)

入館者数は、概ね堅調に伸びてきているようですが、市としては、これをどう評価していますか。

(事務局)

圏央道の開通や鶴舞バスターミナルの開設による都心からのアクセスの向上、ロケーションの良さ、メディアでの活発な露出が来館者数の増加につながったものと考えています。

立地に関しては駅からの距離が遠いなどの課題はありますが、来ていただいた方の満足度も高く、本市有数の観光施設の一つであると考えています。

(神野会長)

私もこれまで何度も湖畔美術館に伺っています。やはりロケーションはすばらしく、あそこまで足を運べば、また行きたくなるというのはあると思いますが、リピーターについてはどうでしょうか。

(美術館)

美術館で実施しているアンケートでは、約半数の方が初めてで、約4割の方が2回目以上の来館であるとの結果でした。

(寺島委員)

常設展も年4回の展示替えを行っているとのことですが、内容としては深沢幸雄さん

の版画の展示が中心なのでしょうか。それとも市の他の収蔵品も展示しているのでしょうか。

(美術館)

常設展では、これまで深沢先生の版画を主に展示してきました。今年度は深沢先生にゆかりのある作家の作品の展示も行いました。市の収蔵品は現在723点ありますが、約半数が深沢先生の作品ということで、これまでの展示は深沢先生の作品が中心となっていました。今後は他の収蔵品についても展示していきたいと考えています。

(鴻野委員)

美術館の地域での機能強化として、子供との関わりということが重要であると思います。これに付随して障がい者や高齢者を含めて多様な層の人達が美術館にアクセスできる、或いは美術館を通して社会に関わっていくといったことも期待されていると思います。こういったところの取り組み状況はどのような感じでしょうか。また、ホームページなどのバイリンガル表記の対応の現状についても併せて教えてください。

(事務局)

子どもたちに来てもらう為の取り組みとしましては、企画展の中で「市原湖畔美術館 子ども絵画展」という形で、年1回市内の幼稚園や小学校からテーマに沿った絵を公募し、入賞・入選作品約300点を展示し、見に来ていただくような取り組みをしています。

また、生涯学習部ふるさと文化課の事業にはなりますが、美術鑑賞教室として、年間4、5校の小学校4年生を美術館に招き、美術館職員の解説により作品の鑑賞をしてもらう取り組みを行っています。

ホームページ等のバイリンガル表記につきましては、現状では対応できておりませんので、まずは日本語表記をしっかりとやっていく中で、バイリンガル表記についても取り組みを進めていきたいと思えます。

障がい者の方との関わりにつきましては、現在、美術館が主催し、障がい者の方を対象としたツアー等は行っていませんが、特別支援学校から職場体験実習として生徒の受入れを行っており、30年度は6月上旬に8日間受入れまして、敷地内の緑地管理や館内の備品整理などを行っていただきました。また、ショップでは障がい者支援施設で作ったクッキーの販売をしております。

(神野会長)

全てに満点というのは中々難しいところですが、今、鴻野委員からご質問あった事に関しては、取り組みについて、出来ている事とこれからの課題であるという事が

お話いただきました。

やはり美術館がある市というのは、とても貴重な資源として、あるいは専門的な能力を持った人たちのいる魅力のある場所として美術館があるので、出来るだけ活かしてもらいたいとのことから質問であったと思います。

美術館訪問に関しては、学習指導要領の中で以前は美術教育において美術館の活用はできたらいいといった感じだったものが、今では、活用するといったようにニュアンスが変わってきています。これは、美術館自体の整備が進んできたということもあると思いますが、それでもまだ美術館が無い自治体もあるわけで、市原市は、それを単に飾りとして造るのではなく、積極的にリニューアルもして、市の中の重要な施設として位置付けているということからも、より活かしていただきたいと思います。例えば、金沢市は、21世紀美術館を造ったときに、小学生は必ず1回は美術館に行くということを政策として決めています。そのためには、当然職員の数も増やさなければいけないし、予算も付けていかなければならないと思いますけれども、積極的に位置付けて利用するというの、そういうことでもあるのかなという気もしますので、より一層頑張っていたいただきたいと思います。

また、バイリンガルについて、寺島委員に伺いたいと思います。国がインバウンドの観光の方々を想定して、バイリンガル表記、あるいは3ヶ国語、4ヶ国語ということを数年前に出したと思いますが、これをどのように対応されたかお聞かせください。

(寺島委員)

国からオリンピックを見据えた指導だったと思いますが、博物館でも、即対応というのは中々難しかった事ではありましたが、一応、都内の博物館、美術館では、ほぼ4ヶ国語対応を行うようになりました。表記としては、英語、それから特にアジアを見据えた形で、中国語、韓国語と日本語です。

ただ、これに関しては、今後どうするか考えるべきところもあると思います。即対応するという形では、印刷物はともかく、展示に関して特に解説パネル等は4ヶ国語ではものすごい量になってしまいます。そこで展示を邪魔しないレベルで付けるとなると、逆に今度は中身が薄くなってしまいうという問題があり、パネルで対応するのは、今後難しいのではないかという話がありました。同じ敷地内にありました国立科学博物館では今後の方針として、企画展のように期間限定で、どんどん変わっていつてしまうものに毎回きちっとしたものを作ると財政的にも厳しいので、そこは翻訳機を活用し、その代わり常設はしっかりと校正をかけた確実なものを作っていくというような話を伺っています。知りたい情報の分量やレベルも壁面に出すというと大変ですが、翻訳機の活用などがさらに進めば、例えば、若い人が中心になるかもしれませんが、スマホを持って行って、QRコードにかざして色々な情報を得るといようなことを最近どこの美術館も考えているようです。ただ、暫定的には、すぐに出来るところと出来ないところがあ

るので国立西洋美術館の場合は、情報量を減らして、壁面に4ヶ国語というような形と最近ではQRコードの活用についてトライしている状況です。

(神野会長)

予算や効果の面からも、全てを完璧に対応するというのは中々出来ないことなので、色々な目的や狙いなどを考えつつ、優先順位を付けて対応するというのを各施設が試行錯誤しながらやっているということなので、湖畔美術館でも、そういった形で色々トライしていただきたいと思います。

### 【議題1】平成30年度展覧会事業等の報告について

(神野会長)

それでは改めまして、議題に入ります。平成30年度展覧会事業等の報告について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

—資料に基づき説明—

(神野会長)

資料にアンケート結果を付けていただいておりますが、これを見ると年齢的にはかなり幅が広く、また市原市内の人が少ないというのが印象的ではありますね。

(美術館)

このアンケート結果は30年度分ですが、25年度からの6年間分で見ると、お住まいはかなりばらつきがあります。中々この1年間だけで判断するのは難しいところではありますが、30年度は市原市内以外の千葉県内の方が多かったです。

(神野会長)

市原の方が大勢いらっしゃる時とあまり来ない時は、展示の内容であるとか、何か相関関係みたいなものが見られたりしますか。

(美術館)

そういった関係性については細かく分析ができていません。

(神野会長)

年によって違うということですが、昨年度を見ると、やはり観光施設としての

性質が強いという見方ができるのかもしれませんが。

では、昨年度の展覧会の内容や事業の取り組みについて、何かご質問、ご意見があればお願いします。

(神野会長)

地元目線で見たとときに、展覧会事業等について、どういった感想を持っていらっしゃるか松本委員に伺いたいと思います。

(松本委員)

私も地元の人間として美術館には非常に関心がありますし、やっている内容もすばらしいと思っています。私の住んでいる加茂地区では人口も減少しており、恥ずかしいことですが、芸術等に関心が薄い人が多いのが現状です。

ただ、いただいた資料を見ても分かるとおり、深沢先生の作品展には、地元の高校で教鞭をとっていたこともあり、教え子など地元の人が一定数は来ています。

先日、市原の観光についての会議に参加しましたが、この中で市原市を訪れる人の一番の目的は養老溪谷、次が小湊鉄道、それから市原ぞうの国とのことでした。この3つは湖畔美術館から遠くないところに位置しており、特にぞうの国はすぐ近くにあるので、関連した企画展やイベントを行うのも面白いのではないかと思います。

私たちが東京に行くのは、一つではなく、いくつかの複合的な施設があるからで、湖畔美術館でも周辺に人が訪れている施設などがいくつもあるので、そういった人たちを呼び込むシステムが作ればよいのではないかと思います。

我々、里山連合としても、現在、市と協力して小湊鉄道沿線の景観整備を行っており、同じようなことが美術館の周りでもやっていければいいと思っています。

ホキ美術館や川村美術館、千葉市美術館がやっていることを見ても、湖畔美術館の企画展も、そうそう負けていないと思っているので、宣伝をうまくやっていき、これは、これから始まるアート×ミックスについても言えますが、市外、県外の人たちだけでなく、地元の人たちにもっと関心を持ってもらえるような取り組みを考えていただくと、地元としても助かります。

(神野会長)

ありがとうございました。地元の人にもっと来てほしいという課題と既に魅力のある所に大勢来ている人たちをどう繋ぐかという課題の二つあるという、ご指摘だったと思います。

養老溪谷に行く人たちと美術館の打ち出せるものをどういうところでマッチングさせるかということは、簡単ではないと思いますが、トライしていく価値はあると思います。

美術館、特に現代アートというのは、今まで見たことのないものと触れ合って、自分の世界を広げていくということも大きな役割の一つなので、その辺りをアイデアとか魅力あるコンテンツで、どう埋めていけるのかということを考えていく必要があると思います。

私は以前、山梨県立美術館で現代美術の展覧会の企画をしていましたが、やはり普段現代美術・現代アートに接していない人たちが山梨県立美術館に来ると、ミレーは見るけど企画展は見ないで帰るということがありました。これをどう乗り越えていくかという時に、インターフェースを面白そうに工夫する、例えば、現代美術百貨店ということで、百貨店の売り場構成で現代美術を紹介するみたいなことをやったりすると、見てくれる人が増えました。やはり自分たちが排除されていない、自分たちが入ってもいいんだというふうに思えることが大事なので、若い学芸員の方々は色々アイデアを持っていると思いますので、それを積極的に活かしてほしいと思います。

(神野会長)

石川委員にも地元としての意見を伺いたいと思います。

(石川委員)

市原市が湖畔美術館を改修して、芸術祭を始めた時は、本当にすごいことだと思いましたし、先程、神野会長から美術館を持っている自治体は貴重であるという話を伺って確かにそうだなとも思いました。この宝物を活かしていくために、専門的な知識を持った方々のいるこの協議会の意見をできるところから是非実行に移していただき、レベルアップを図っていってもらえればと思います。

私自身もお客さんに小湊鉄道沿線を案内する際は、ほぼ必ず美術館にお連れしていますが、田舎の雰囲気の中に美術館という真逆のものがあり、みんな大変喜んでくれます。ですから、こういうものを両方持っている市原は大きな価値があると思います。

先日、岡山に行った時に、朝の早い時間から大勢の外国人が岡山駅に入っていくのを見たので、地元の観光協会の方に聞いたら、みんな在来線とフェリーを乗り継ぎ瀬戸内芸術祭に行く観光客とのことでした。また、日本人向けのツアーとして、羽田から岡山空港へ行き、そこから観光バスで大原美術館などを巡るツアーを数年間やっているが、ずっと売れているとのことでした。県内でも千葉駅発で湖畔美術館、川村美術館、ホキ美術館を巡るツアーをやってみるのも面白いのではないかと思います。

湖畔美術館を知らせていくという面では、やはり高滝で美術館が多少孤立しているようなところがあると思うので、五井駅周辺の人が多いところに、難しいとは思いますが、ミュージアムショップの一部を造るとか、より多くの人に知ってもらうという面から、アクアラインの海ほたるや木更津のアウトレットなどで、市原市の高滝には美術館があって、こういうことをやっていますよといったことをPRできるといいのかなと思います。



(神野会長)

魅力は、どう知ってもらおうかということも大きな課題なんだと思います。その時にそこでどんな体験ができるのかということがイメージできるようになると、先程お話のあったツアーというのも参加したいと思う人たちが出てくるでしょうし、もっと言うと、やはり小湊鉄道のあの魅力というのは、ローカル線ゆえの魅力があって、多くのファンがいるわけですから、駅から美術館までの間を歩いていて何か楽しくさせることができると、どんな体験ができるのかということがイメージしやすいし、さらに景観が変わることによって、そこにお店ができたりしてくると、地元の経済にとってもいいことですし、体験としてのイメージが変わってくるかもしれないです。

湖畔美術館周辺でも、そういった変化やこれからの取り組みについて何かありますでしょうか。

例えば、21世紀美術館では、美術館ができた後、それまで商業的な施設等が一切なかったところに、今や色々なものができるなど変化がありました。古いものがあるという街のイメージが古いものだけではないというふうに街の意味も変わってきました。

こうしたことが市原でも湖畔美術館を中心に起こせる可能性があるので、そういった変化のきざしみたいなものが何かあったでしょうか。

(事務局)

圏央道の鶴舞インターチェンジや鶴舞バスターミナルができ、また湖畔美術館がリニューアルオープンした平成25年以降、これまで商業的な施設が建設されるなどの大きな変化は起きておりません。高滝湖のロケーションを活かし、観光地化していきたいということは常々考えておりますが、中々進んでいない状況です。こうした中、湖畔美術館の付近にある旧高滝小学校を人の呼べる施設として、民間の活力を活用し、何かできないかということで、別の部門にはなりますが、プロポーザルをして、集客につなげていこうという取り組みを現在進めているところです。そこでいい提案があり、市も協力していくことで、湖畔美術館と並ぶ中核的な施設になってくれば、人も来るようになり、商業的なものも成り立ってくるのではないかと考えています。

(神野会長)

今後、変化が起こりうるということですね。

他は、いかがでしょうか。

(石川委員)

資料の管理経費の収支決算にある「そのほか雑収入」は、ショップの売り上げ等ですか。

(事務局)

アート市原2018の春・秋イベントを行った際の連携会場としてアート×ミックス実行委員会から予算が出たものです。

(神野会長)

では、稼いだというよりは、事業委託費的な意味合いのものですか。

(事務局)

そうです。

(石川委員)

湖畔美術館があることによって生まれる経済効果でいうと、貸館等の賃料と入館料、ショップの売り上げ、それからボツソの売り上げの4つ位ですかね。

(神野会長)

あとは、できれば周辺でお金を落としてもらえればということですかね。

(石川委員)

美術館は入館料やショップの売り上げ等で収入がプラスになることはありますか。

(神野会長)

基本的に入館料収入その他で黒字化することは、美術館ではまず不可能だと思います。これは、ルーブル美術館や大英博物館であっても同じです。だから、やはり社会的にどのような価値をみんなに提供するののかという事がまずあって、それでも、より経済的な負担が減った方がいいので、魅力ある施設にして、周りも発展するなかで外部経済としてお金が落ちるといいなという捉え方をしたほうがいいと思います。

(寺島委員)

経済的な面を考えると、自己収入を求められることも、よく分かりますが、美術館は、自己収入だけで成り立つものではありません。一見無駄に思えますが、公的にサポートすることにまた意味がある。

しかし、皆さんがおっしゃられたように、美術館の収入を上げていくには、地域と連携していくことが非常に重要なことなのかなと思いました。

(神野会長)

アートフロントさんで言うと「越後妻有」などで展開している時には、まさに地域の

価値をアートから見出して商品として価値のあるものとして見せていくという時にアーティストが関わることで、それが可能になるということが行われていると思います。恐らく、そういうこともアート×ミックスの課題としてもあるでしょうし、今後更にやっていただきたいと思います。

もう一つは、湖畔美術館は現代アートを中心に展開していますが、現代アートはただ新しいものが好きな人というだけではなく、例えば未知との遭遇というか、自分の価値では捉えられないものに触れたりすることで、自分にはない価値観が増えていく、そうすると例えば子供の頃にそういった経験をしている子供たちは、新しいものを面白がったりであるとか、新しい挑戦をしようとしたりであるとか、そういうことが結局、地域の底上げにつながっていくということが、世界的な潮流としてありますので、そういったことも踏まえて、市として現代アートを展開している湖畔美術館は価値のあるものだとすることをきちんと伝えていただきたいと思います。

## 【議題2】令和元年度展覧会事業等の報告について

(神野会長)

続きまして、令和元年度展覧会事業等の計画について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

—資料に基づき説明—

(神野会長)

ありがとうございました。今年度の展覧会は既に始まっておりますけれども、あと二つの企画展と例年恒例の子ども絵画展が予定されていて、これらに関わる各種イベント等を実施していく、また、常設展は深沢幸雄さんの版画を中心に日本の版画展を行っていくとのことでした。さらに年度末にはアート×ミックスがスタートするということが、これらの事柄について、ご質問やご意見がありましたら、ご発言をお願いします。

(神野会長)

現在、行われている「更級日記考」を今日見させていただきましたが、とても面白かったです。更級日記そのものには言及してないわけですが、女性の日常的な視点みたいなものがあって、現代的でもあり、魅力的なもので非常に良かったです。やはり学芸スタッフの個人的な関心がちゃんと魅力あるところまで洗練されて、発信されているものは、人を惹きつけると思いました。

(寺島委員)

私も同感で非常に楽しませていただきました。色んな表現の違いというのも合わせて見せていただいたので、一つの色だけではないという感じがすごく良かったのと更級日記というのが元にはあるけれど、出来事を記録する方法自体にもバリエーションがあって、すごく楽しかったです。バリエーションがあると、それに関連したプログラムを企画するときにも、かなり多くの人に伝えるというか、広げることでもあるという意味でも、この更級日記の展覧会はすごく良かったです。

(鴻野委員)

私も更級展を拝見しましたが、本当に全く違うタイプのアーティストの作品が集まっていて、アーティストトークも聞きましたが、とても面白かったです。また子供が見ても面白だろうなという作品や仕掛けがたくさんあって、美術館の目的の一つがやはり子供ということなので、そういった所も工夫されているのかなと思いました。また、今年度も子ども絵画展が計画されていますが、毎年楽しみにしてしまっていて、作品を展示するだけではなく、前回は新聞紙を使い会場の装飾が行われるなど、毎年工夫がされており、そういった所も楽しくて定着しているのだと思いました。

(神野会長)

今年度2期目の企画展ロシア現代アートの世界のゲストキュレーターである鴻野委員に見どころなどをお聞きしたいと思います。

(鴻野委員)

ロシア現代アート展は、広い世界に子供たちが触れるということで、元々はロシアの現代アートを紹介してほしいということでしたが、実は隠れたテーマがありまして、これは宇宙や南極など彼方への旅がテーマになっています。子供たちが虐待や貧困など日常的に色々な厳しいことに直面し行き詰ったときに、全く違う世界があると、宇宙ですとか冒険ですとか広い世界があるということを隠れたテーマにしています。ですので子供が悩みがちな家族や学校、友人というものを出不さないようにして、来た人が新しい世界観を得られたらなと思っています。

例えば、月と友達になる孤独な男の子を描いた絵本の展示をしますが、たとえ日常生活で友達との関係に問題があっても、こういう発想もあるよというようなものを示しています。

また、冒険をテーマにしていますが、経済的に旅に出られない子供や冒険に出られない子供もいるので、日常の中で、どういった空想の世界で遊べるかとか、そういったこともテーマにしていきます。来た人がちょっと心が軽くなる、美術を通じて自分の心が開かれる、そういったものにしたいと思っています。

(神野会長)

やはり美術館に行って、作品に触れることというのは、色々な楽しみ方がありますが、別の世界につながる窓になっていて、救われるということは確かにあると思います。

今のお話で思い出したのが、先日カリタス学園で凄惨な事件が起きた時に、犯人に対し、自殺をしたいなら勝手に一人で死ねばいいといった事がネット上で話題になった時に、爆笑問題の太田さんが番組の中で、勝手に死ねというのは気持ちは分かるけど、でもやっぱり、そうであってはならなくて、太田さん自身が若い頃に、本当に自分が何が面白いのかも分からなくなって、自分なんて生きていてもしょうがないみたいな状態になった時に、ふとしたきっかけで美術館に行き、ピカソの作品を見て、こんなに自由でいいんだと思って、とても励まされた、それまでは味も分からなくなって、自分にも価値はないし、周りの人間も価値がないみたいな感じになっていた世界が一変していく経験をしたという話をされていたのを聞き、確かにそうだなというのをすごく思って、そういう出会いの場としての美術館というのも、とても重要だと思いました。やはり私達も日常生活で楽しいことばかりではないので、その中で行く先の選択肢として美術館があって、そこに別の世界につながる、イマジネーションを使って、つながっていけるような作品があるということで、社会的に実はすごく重要なことなんだと思います。

(石川委員)

芸術祭との連携について、これから具体的にになっていくとは思いますが、現時点ではどのような形での連携を考えているのか教えてください。

(事務局)

来年3月に始まるアート×ミックスのイメージとしましては、これまでは南市原を舞台に地域の方たちなどにも協力してもらい、廃校や空き家、地域資源を活用し、現代アートの力を借りながら、高齢化や人口減少の進行した南市原を活性化していきたいという取り組みでしたが、どうしても南市原の中だけで終わっているといった部分がありましたので、今回は市を全市的に巻き込んで実施していくという考えから、小湊鉄道の五井駅を会場の一つとして使用することで、五井から南市原までをつなぎ、全市的な注目を得ていきたいというところが一つございます。

あとは、市外、県外からの認知度を上げていくという意味で、全国的にも注目度の高いチバニアンも会場の候補地として考えております。

また、来年は東京オリンピック・パラリンピックがあるということで、芸術祭については、オリパラの文化プログラム「ビヨンド2020」という認証を取り、日本の文化の良さというのを海外にも発信していき、インバウンドの獲得も狙っていきたいということで、そういった環境整備もやっていきたいと考えています。

また、湖畔美術館については当然中核的な施設になっていきますので、今回、芸術祭の総合ディレクターを北川フラムさんにやっていただき、そういった意味からも、すごい連携、連動が図りやすいと思いますので、美術館でやる企画展と我々が行うアート×ミックスをうまく連動させながらやっていきたいと思っています。

(神野会長)

今回は、五井も会場となるということですか。

(事務局)

そうです。前回までは、南市原の中核である牛久から南でやっていましたが、今回は五井から始めるということで、五井駅会場の作品を見たところから不思議な世界に入っていくって、そのまま小湊鉄道で南市原の会場に来ていただき、各会場の作品を見て、不思議な世界のまま、また小湊鉄道に乗って帰っていただくというようなイメージを今、考えています。

(神野会長)

その中で、湖畔美術館も重要な役割を担う準備をしつつあるという感じですかね。

(事務局)

はい。湖畔美術館については、今年から、それを見越した中で連携、連動していければいいなと思っています。

(神野会長)

美術館側からは、何かありますか。

(美術館)

来年のアート×ミックスでは、中核施設として、色々と一緒にやっていきたいと思っているところですが、具体的な展覧会の企画については、現時点ではまだ未定ですので、これから色々と考えていきたいと思っています。

(神野会長)

そのあたりは、先程のその他雑収入のような形で、追加の事業として湖畔美術館に依頼、委託といった感じになるということですかね。

(美術館)

美術館では指定管理料をいただいて、その中で展覧会の企画等を行っています。一緒

に関わっていく中で、そういった事もあるかもしれませんが、現時点では特に決まっておられません。

(神野会長)

いずれにしても、期待は大きいですし、そういう活用をしてもらおうということが、前提なのかなということですね。

(事務局)

湖畔美術館にも人がたくさん来て、アート×ミックスでも大勢の人に来ていただくような形につなげていきたいと考えています。

(神野会長)

他に何かございますか。

本日は第1回目ということで、湖畔美術館、その他水と彫刻の丘について色々説明していただいて、委員の皆様からは、様々な意見をいただきました。全てを急に解決するのは中々難しいとは思いますが、先程、石川委員からも協議会の内容を是非、運営の今後の改善に活かされるようお願いしたいという話もいただきましたので、是非、積極的に活かしていただきたいと思います。

また、ここに参集していただいた委員は、それぞれすごく活躍されている方々なので、市はもちろんのこと、美術館のほうでも、個々に意見を聞いていただいたり、あるいは連携をするということも、とても重要なことになってくるのかなと思っています。

以上で、本日の議題は全て終了いたしました。

それでは、これ以降の進行を事務局にお返しいたします。

(司会)

神野会長、ありがとうございました。

それでは、次第の(7)その他に入ります。

委員の皆様から議題を離れて、その他何かご質問等ございますでしょうか。

(神野会長)

市原市は、文化芸術に関する基本計画のようなものの策定はしていますか。

(事務局)

教育委員会のふるさと文化課ですが、平成29年3月に市原市文化振興計画というものを策定しました。その中で、先程お話しましたような美術鑑賞教室をはじめ、その他にも伝統芸能やお茶やお花などを含めたものを子供たちに教えていくなどの事業を行

って、未来の子供たちに、今の文化を伝えていこうということを基本方針にしています。

(神野会長)

ありがとうございます。今日、私達が水と彫刻の丘について色々と言ったことも、こうした計画と連動することも多いと思いますので、この計画も見ながらやっていただけたらと思います。

(司会)

他にございますでしょうか。

その他、事務局から何かありますか。

(美術館)

この場をお借りしまして、現在、湖畔美術館が抱えている課題について、お話させていただきます。

課題としては、大きく3点ございます。1点目が予算について、2点目が開館時間について、3点目が公共交通です。

まず、予算についてですが、美術館では、入館料収入と市原市からの指定管理料で、展覧会の運営、施設の管理、人件費等を賄っている状況です。美術館は平成7年に建築され、平成25年に一部改築を行った建物であり、現在、老朽化の進行により、雨漏りが発生している箇所があります。また、設備等は定期的にメンテナンスを行っていますが、24年も経過しており、今後、抜本的な改修が必要な箇所が出てくるのが想定されます。その他、屋外を中心に恒久作品がございますが、日常的に風雨にさらされており、色落ちや多少の破損など傷んできている状況が見受けられます。これらの対応に係る費用の面から予算を課題としてあげさせていただきました。

次に2点目といたしまして開館時間です。現在、美術館では開館時間が3パターンに分かれております。平日は午前10時から午後5時まで、土曜日と祝前日が午前9時半から午後7時まで、日曜日と祝日が午前9時半から午後6時までとなっております。現状を申し上げますと、土日の午後5時以降の入館者数は、その日の全入館者数の1%にも満たない状況でございます。こうしたことから、実態に即した開館時間にすることも検討していきたいということで課題として考えています。

最後に公共交通についてですが、現在、美術館は公共交通を利用したアクセスがあまり良くない状況でございます。こうしたことから、自家用車で美術館に来る方が多いということがアンケート結果でも出ています。例えば、小湊鉄道利用者や高速バス利用者を誘致することができれば、より入館者数が増えてくるのではないかと考えています。今年度から、指定管理料にシャトルバスを運行するための予算を付けていただき、イベント開催時などに鶴舞バスターミナルからの無料送迎バスを運行していますが、これも



限られた予算の中で行っていることであり、毎週末出来るかというところから、課題としてあげさせていただきます。

(事務局)

今、美術館から、今後検討していくべき課題として3点いただきましたことについては、市としましても認識しているところでありますので、この改善に向け、今後も引き続き情報共有を図るとともに、本会議において協議していただける形に整理してまいります。

(司会)

続きまして、事務局より連絡事項がございます。  
それでは、よろしくお願いいたします。

(事務局)

市原市附属機関等の会議の公開に関する要領により、委員名簿を情報公開コーナー及び市ウェブサイトで公開することとなりました。つきましては、お手元に配布している承諾書に記入いただき、お帰りの際に事務局までご提出をお願いいたします。

また、次回の協議会は11月を予定しております。詳細等決まりましたら追ってご連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

(司会)

神野会長をはじめ、委員の皆様におかれましては、長時間にわたり、熱心なご議論をいただき、誠にありがとうございます。

なお、追加でのご質問、ご意見等ございましたら、後日事務局まで、メール等をお願いいたします。

以上を持ちまして、令和元年度第1回市原市水と彫刻の丘協議会を閉会いたします。ありがとうございました。